

協働事業評価シート

部課名	川越市男女共同参画課
記入団体名	川越市女性団体連絡協議会

令和元年度

予算事業名	男女共同参画推進
-------	----------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	イーブンライフin川越	
協働事業の概要	男女共同参画社会の実現を目指し、市民への意識啓発と男女共同参画に対する理解の向上に協働して取り組むことを目的とし、①DVに関する研修会、②人権デーにちなんだ講演会、③男女共同参画アンケートを実施した。	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年7月18日から12月20日	

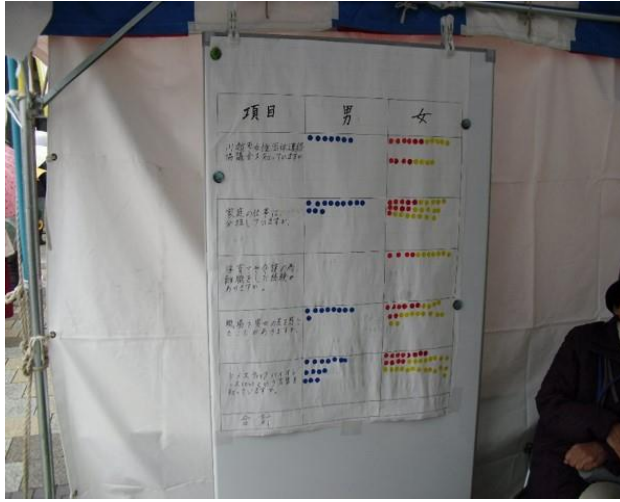
協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	33.5 点
------	--------



男女共同参画
アンケートの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今年度から担当となり、初めての事業に対する不安がありましたが、定期的に団体との話し合いの機会を設けていただき、協働事業実施にむけた認識や情報を共有することができたため、計画的に目標に沿った複数の事業を実施することができました。

今回から初の試みとして、講演会の他にDV（デートDV）に関する研修会と「かわごえ産業フェスタ2019」において男女共同参画に関するアンケート調査を実施しましたが、いずれの事業も多くの市民に参加していただき、協働による市民目線の啓発活動の場が増えたことにより、より多くの市民に男女共同参画に対する理解の推進を働きかけることができたのではないかと感じています。

【市民活動団体等】

当会（川越市女性団体連絡協議会）の目的の一つに、男女共同参画社会を実現するために活動することを目的とする。そのために・男女共同参画に関する意識啓発、及び調査・研究を行う・川越市男女共同参画推進条例第8条に基づく基本計画を行政とともに推進する。そのための活動をしています。これからも行政とともに、市民啓発の事業としてぜひ続けていきたいと思っています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	2名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	8名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・講演に研修会やアンケート等が加わり、少し進歩した。当然こうした事業の目的が短期で達成されるものではないことではないことはわかるので、内容の充実を常に考えてほしい。今回の講演の内容は良かったと思う。
- ・研修会の参加者が少ないように感じる。
- ・講習会やアンケートの年齢別の集計をしてほしかった。
- ・今回は新しい取り組みをしたとのことで、そうしたことが一定の評価を得ることにつながったのではないかと思います。今何が問題なのか惰性で考えるのではなく、常にアンテナを張って情報に敏感になりながらチャレンジすることで、より良い市民の求めるものに近づく事業になるのではないかと思います。そしてこれは行政にも同様のことが言えると思います。

- ・今回はイーブンライフ、産業フェスタ等の事業でも男性の参加が増えたように思う。これからも男女共同参画として広く市民に働きかける事業を行ってください。
- ・今回から、講演会だけではなく、研修会、川越産業フェスタでのアンケート等、複数の事業を展開し、それなりの成果をあげたと考えます。今後も当初の目的を十分に達成するために、各事業の精度を高めていく事を期待します。
- ・アンケートについて、参加世代がわかるようにしてほしい。担当課が団体に要請すべき。どの年代へ今後の政策としてPRしていくかなどは、担当課が考えるべき。同じ層の参加ばかりの現状ではないか。
- ・くらしに根付いた視点からのとりくみを入れる工夫が必要かと。企画のマンネリが否めない。
- ・昨年より協働事業として評価できるが、「テレジン収容所命のメッセージ」について、講演もあり、感動したが残念な事に他の人権推進課でも取り上げている。行政の横のつながりがあればもっと違ったテーマが出たのではないかと思います。
- ・本事業は住民意識の啓発、向上という息の長い地道な努力を要するものである。それを踏まえつつ、マンネリに陥ることなく知恵を出し合い工夫して事業を進めていただきたい。
- ・今回は、人権や生命にかかわる重いテーマを取り上げ事業を実施され、目的とした「意識啓発と理解の向上」に寄与したと考えられます。しかし、男女共同参画に対する市民理解は、これからも進める必要があり、継続しての事業の推進とさらにテーマの広がりを期待します。

協働事業評価シート

部課名	こども未来部 こども政策課	令和元年度
記入団体名	NPO法人川越子育てネットワーク	

予算事業名	子ども・子育て支援新制度	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	--------------	--

協働事業名称	子育て情報誌作成	
協働事業の概要	子育て中の方、これから出産し子育てする方が安心して子育てができるよう、行政の制度、各種相談窓口、出産・子育てに関する情報などを紹介するための情報誌を作成する。 ①行政情報以外の掲載内容の検討 ②行政情報以外の原稿作成・編集・校正作業 ③子育て中の母親・父親の活用（取材・イラスト等） ④行政情報のページの提案	
協働事業の決算額	136,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年6月24日～令和2年3月31日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34 点
------	------



令和2年度
「こえどちゃん」

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

当事業は今回で18版目となる子育て情報誌の作成を行うもので、子育て当事者と行政双方の視点から子育て情報を掲載し、市内の未就学児のいる世帯へ冊子を配布することで、子育てを支援するものである。

掲載内容については、協働事業の実施により、市民活動団体の意見を取り入れながら、ニーズに合った情報を掲載することができている。

作成会では、記事を検討するグループと託児を行うグループに分かれ、交代で作成を進めていたことが印象的だった。母親が子どもと離れる時間や子育て中の方も社会とつながっていることを実感できる機会が、子育てにとって重要であると感じた。また、今回参加していたボランティアの方々も、ママ記者としての取材のみならず、表紙やイラストの作成など、さまざまな能力を発揮し、よりよい冊子としていただけただけのものと考え、今後の発行においても、ボランティアの方々の参加を求め、子育ての体験を通じて、より充実した情報誌となるよう作成したいと考える。

また、平成27年度版からは、編集印刷等を担当する民間事業者と協定を締結し、3者で事業を実施している。これに伴い、子育て支援施設や幼稚園、保育所等を通じ、合計2万部を子育て世帯に配布している。近年、印刷、輸送面など、冊子作成のコストが増加していることなどもあり、民間事業者の負担が大きくなってきているため、今後についても、事業者などからの情報収集に努め、必要とする家庭に子育て情報誌が届けられるよう作成を進めていきたいと考える。

【市民活動団体等】

昨年度同様、企業+行政+NPO法人の3者での制作で、我々NPO団体としては、妊娠中・子育て中の母親、父親にお伝えしたいリアルな体験記事の制作と、温かみのある風合いにこだわった情報誌が作成できたのではないかと感じる。

未就学児のいる全世帯に配布できる20,000部を発行し、全ページフルカラーで見やすく、多くの方に情報が届けられるのは大変嬉しいことである。担当課には各課との調整や情報誌作成業者とのやり取りを窓口として仲介していただき、年を重ねるごとに信頼感が増し、スムーズな連携が取れている。制作会等にも顔を出していただき、参加者さんの思いをストレートに感じて頂けたものと思う。

当初予定していた「虐待」のテーマについては担当課や関係する各課と相談し、子どもとの関わりのヒント（本誌の中では困ったあるある）と主任児童委員紹介とした。その他、発達、育成会、外国籍の方に向けたつどいの広場への案内など、幅広い内容で時代に合ったテーマを中心に構成した。発達支援センターへの訪問取材や主任児童委員さんとの座談会などを行い、教科書的ではなく、また悲観的でもなく、前向きに伝わるよう掲載することができた。父親の育児参加についても参加の母親から声をかけていただき、先輩パパとしてのリアルな声を掲載した。今後もさらにニーズを把握しながら、もっと読み易く、子育ての役に立つ情報誌となるよう努力していきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	10名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	0名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・この事業が持つべき役割が定まってきたように思う。毎年明確な目的を持ち、協働にふさわしい事業内容を実施していると感じる。

また、市民が必要な情報を与えるための工夫もされており、タイムリーな情報が素晴らしい。インスタグラムや外国の活用も素晴らしいと思う。

- ・多言語でのつどいの広場紹介や虐待についてのテーマは難しい面もあるが、前向きに捉えていただきありがたいと感じる。
- ・主任児童委員や育成会などの項目は今までにはなかったが、より幅広い内容になった。
- ・既に高い評価を受けている事業だと思いますが、今後も更なる発展のビジョンを持っているということで、期待したいと思います。行政・団体間の「やりたいこと」がうまくマッチしていると思いますので、双方のコミュニケーションを密にしつつ、引き続き取り組んでいただきたいと思います。
- ・子育て情報誌として若いお母さんには必要。
- ・これからも長く続けてください。
- ・協働事業のモデルケースとなる事業展開が深化しているように見受けられ、関係者の皆様に敬意を表します。今後も、時代ニーズを先取りし、より良い協働事例の模範となることを期待します。
- ・女性の活躍を推進する政策としても、行政はアンテナを立ててほしい。子育て支援の枠だけではなく、男女共同参画の政策としても効果的である。他市の子育て支援冊子と比較するとNPOと協働する意義がよりよくわかる。川越市が誇れる事業である。予算をあげてほしい事業である。16万円は安すぎる。
- ・掲載内容も工夫されており、子育て情報誌として子どもを育てる親にとってはとても役立っていると思います。今後ともより良い紙面づくりに取り組んでいただきたいと思います。
- ・最近、子どもへの虐待が取り出さされているが、事故との区別が難しく、その点を本紙でアドバイス（法律相談のページ）がほしい。
- ・何よりも受託団体が本事業を楽しんで取り組まれている様子がうれしい。子育ては苦しいときもあるが、楽しいものだということ発信力が頼もしい。
- ・18版目となる情報誌だが、子育て現役世代の取り組みや多言語化など進化させていることが理解でき素晴らしいと感じました。今後も更に継続・発展を期待しています。

協働事業評価シート

部課名	環境部 環境政策課
記入団体名	福原ファームクラブ

令和元年度

予算事業名	環境基本計画推進
-------	----------

新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
--

協働事業名称	かわごえエコツアー事業	
協働事業の概要	市内の環境の現状と保全活動の大切さを学び自主的に環境活動に参加する人を増やすため趣旨に賛同した市民活動団体に協働委託して実施するものである。 実施日：令和元年11月18日 行程；ウエスタ川越・池辺公園・霞ヶ関第2浄水場・霞ヶ関カンツリー倶楽部・霞ビオトープ・市民の森8号地・川越市場	
協働事業の決算額	94,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年9月27日 ～ 令和元年12月20日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34.5 点
------	--------



ツアーの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

協働事業は、それぞれの団体（民間・行政）が持っている利点や得意分野を活かした事業ができる制度であると考えております。

今回のエコツアーに関しましては、団体側が有している企画・運営力やネットワーク、行政が有している広報力や市民からの認知度を一体化することによって、より高い次元での事業が実施できたものと考えております。

企画内容は、バランスよくバラエティに富んだ内容となっており、参加者からの感想をみても、質の高いよい事業が実施できたものと考えております。

【市民活動団体等】

- ・一般に開放されていない事業所への訪問は、市役所との協働事業ならではのものです。
- ・団体で移動の際はトイレ問題が重要です。特に女性が多いと公的な場所を利用することになりますが、今回訪問したい場所が一般開放されていなかったため、無駄な時間を使うことになってしまった。
- ・環境問題は直ぐに結果の出るものではないので、少しずつですが、市内の環境活動を伝えていきたいと思っています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	8名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	1名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・市と事業団体の情報交換が良くできていると事業報告の内容から感じた。協働事業の趣旨が良く理解された事業運営であると思われる。
- ・毎年、少ない予算での企画・実施、大変よく行っている。
- ・毎年工夫をこらしていて素晴らしい。団体の熱意をいつも感じる。
- ・オリンピックの会場を見学できてタイムリー

- ・女性目線の環境アプローチは団体ならでは
- ・バスツアーの参加者を環境ボランティアへつなげる工夫をしりたい。
- ・トイレ問題で、今回訪問したい場所が一般開放されていないとはどのようなことだったのでしょか。
- ・行政からの要求と団体の能力とがうまく機能したものだと思います。一方で団体からの希望・要求をどのように実現していくのかという点で少しずつ考え方の違いが出始めているのかなと感じました。そこをどのように乗り越えるのか、期待したいと思います。
- ・環境問題はこれから大事だと思います。
- ・環境保全を大局的にとらえ、ウェスタ広場が防災対応になっていること、川越市郊外には自然が豊かであること、また、防災面での重要性が増している中で、浄水場を取り上げた事等、非常にバラエティに富んだ内容であった。今後も、協働事業の特徴を生かして事業展開してください。
- ・毎年すばらしいツアーを企画されていると思います。多くの市民が参加できるような他の事業と上手に連携できればと思います。今後とも頑張ってください。
- ・本事業に参加した25名の方が環境問題を意識したことは間違いのないと思う。今後どの程度の方々が自主的に環境保護活動に参画していくのか興味あるところである。
- ・福原ファームクラブの独自活動や10回目となる「かわごえエコツアー」実施等、その努力は大きく評価できます。しかしながら、目的とする自然環境の保全の課題の解決に向けた取り組みとして見ると、ツアーで見て感じるのみで充分かと疑問を感じます。もう一度目的の原点に戻った取り組みを期待します。

協働事業評価シート

部課名	市民部地域づくり推進課	令和元年度
記入団体名	こえど市民活動ネットワークプロジェクト実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	こえど市民活動ネットワークプロジェクト	
協働事業の概要	<p>①市民活動支援講座の開催 令和元年9月8日(日)ウエスタ川越会議室1、「石川組製紙とゆかりの川越の人々」～市民活動の視点から～ 講師は三浦 久美子氏(入間市博物館学芸員)。石川組製紙の歴史を市民活動の視点から、また織物のある街と歴史文化まちづくりを市民活動に生かすという視点からの講座とワークショップを開催。</p> <p>令和元年11月16日(土)ウエスタ川越会議室1、「市民活動のための映像コンテンツの作り方とウェブ配信術」を開催。講師は映像作家の熊倉次郎氏とNPO法人カワゴエ・マス・メディアの本間寿子氏と白井紀行氏。ワークショップでは、川越ハーフマラソンを題材に各自がディレクターになったつもりで映像のテーマやストーリーを考えたり、グループごとに発表。</p> <p>②シンポジウムの開催 「市民活動フォーラムin 川越2020～現場からの報告会」を開催 令和2年1月29日(水)13:30よりウエスタ川越小ホールにおいて、川越で平成21年から地域づくりに関する協働事業を行ってきて、現在も活動している市民活動13団体が一堂に会して、活動発表やブース展示を行い、またトークセッションにおいて意見交換を行う。</p> <p>③情報紙の発行 市民団体の活動内容やシンポジウムの概要及び市民活動に関する講座の情報を掲載する情報紙(A4サイズ12ページ拡大版、1000部)を発行。</p>	
協働事業の決算額	514,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年7月1日から令和2年2月28日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	4	3.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	4	3.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	3	4	3.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	4	3.5

合計点数	25.5 点
------	--------



市民活動フォーラム
in川越2020
の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今年度は、シンポジウムを開催し、協働事業を始めた平成21年度から今年度までに協働事業を実施した団体同士が集まり、近況の活動を発表し、ブース展示を行い、さらにトークセッションにおいて意見交換をすることにより、現在の活躍も知ることができるとともに、つながりを広げることができた。

今後も、団体同士がより交流できる事業内容を検討していきたい。

少し残念に思ったのが、何回もの打ち合わせを重ねたにもかかわらず、直前で進め方を変更するというようなこともあり、協働で行うことの意義や打ち合わせの重要性を再確認する必要があると反省した。

担当課から委託事業を行う明白な意図、意義を伝えきれていないのではないかと感じたので、まずそこから改善していきたい。

当初の協働目標であった、市民活動の中間支援は3年間10回の講座及び情報誌1号から5号で行ってきましたが、今回はシンポジウムの開催によって市民活動団体のネットワークづくりも果たせるようになってきたと思います。

3年間の協働の成果も出ていて、具体的には、市民団体側の専門性と人的ネットワークを活かした講座の企画運営と、行政側のネットワークを生かした、情報誌やチラシの配布、市の職員研修など、協働でなければできないことが実施できたと言えます。

シンポジウムに参加した学生記者の感想より～自分達のやりたいこと、「市民活動」と社会貢献とを結び付けて川越の活性化に繋げている点が素晴らしい。社会のニーズが多様化してきている現代で、民間と行政といった両者の力が結合した地域づくりが環境の変化に対応できているといった、公と民の協働が現場で伝わってきました。トークセッションでは、人と人とのつながりが市民活動で最も大切なキーワードであると感じました。市民活動の「見える化」が市民にとって生活の安心材料となり、市へのより厚い信頼につながるのではないかと、また、市外からも注目してもらえ、まちづくりに発展するのではないかと感じます。「見える化」によって活動の認知度が向上し、さらに若者の参加者が増えれば次世代へのバトンタッチの期待は増大します。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	1名	B
B	6名	
C	3名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

・協働事業に対する評価が行政も団体も、他と比較して低い理由はなぜか。この事業は協働事業団体間のネットワークを作ることが目的なはずであるが、それなりの改善点が指摘されているので、是非改善の実現を望む。

・様々な取り組みを行っているようで、その点については、まず敬意を表したいと思えます。「見えない」成果も、少しずつ実感できるようになってきたとのことですが、今後は行政との連携が必要になってくる場面が増えてくるはずで、ネットワークを作った後、どのようにそれを継続させていくのか検討していただければと思います。

- ・担当課と民間との信頼関係に反古が生じては良い協働事業はできません。この点に関して反省を踏まえ、今後の取り組みにあたることが肝要と考えます。
- ・協働提案事業をより良くするためにというテーマなど、担当課がはっきりしたビジョンと目的をもっと打ち出してもよかった。
- ・1/29のフォーラムは次につなげる機会になったのではないか。グループトークから出たコメントをまとめて委員会に報告してほしい。
- ・行政と市民活動団体との考え方の相違が感じられる。打合せ等は十分に行われたのだろうか。
- ・シンポジウムがやっと開催されたと思います。補助金はあくまで税金であり、今まで補助金を受けた団体のその後の活動を知りたいのと、その団体の充実や活性化を生かしながら協力、連携を図ることで文化や観光等の更なる発展を望みたい。
- ・市民活動団体のネットワーク作りにご尽力いただきありがとうございました。今後も市内で活動されている団体が、一層つながりが持てるようご尽力ください。
- ・公益の観点及び住民サイドから大いに期待している事業である。創意工夫して市民活動を盛り上げていく起点となることを期待する。
- ・3年間の事業の節目ということで、シンポジウム実施は一定の成果だと考えます。担当課と団体の意識のずれがとの懸念がある様で、市民活動グループやボランティアしたい人が一緒に又はそのネットワーク作りを行うという難しさを感じられました。しかしながら、今年度はシンポジウム開催という一歩が踏み出せたと思います。継続発展を期待します。